

練馬区立 中里郷土の森緑地

令和 5 年度モニタリング調査結果



PURPOSE & METHOD

目的

- ▶ 地域の生物相の解明
- ▶ 区民のみなさまに自然の魅力を発信するための材料づくり

調査方法

踏査により発見された動物類^{※1}全般、維管束植物を記録する。動物類は個体数を記録。植物類は基本的に開花結実状況^{※2}がみられるものを記録した。
また、調査日以外に確認されたものがあれば追加で記録している。

1 中里郷土の森 園内調査

- ▶ 週に1回実施。^{※3}
- ▶ 植栽株を別途記録。
- ▶ 園内水辺の底生生物調査を年4回以上実施。

2 周辺緑地調査

- ▶ 月に1回実施。
- ▶ 中里郷土の森周辺の緑地を調査。

3 河川調査

- ▶ 年に1回実施。
- ▶ 白子川、石神井川の指定区域内を調査。
- ▶ 踏査の他、タモ網、投網による採取も実施。

※1：哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、クモ類を対象とし、その他特記すべきものは別途記載。河川調査では魚類、甲殻類、その他底生生物も記録。

※2：シダ植物は年度の初認時に記録。その他、記録が無いものや特記すべきものうち、樹齢や管理状況により開花結実が期待できないものを別途記録。

※3：状況や記録から明確に植栽とわかる種。不明なものや逸出したものはいずれの調査でも他の植物と同様に記録している。

光が丘公園調査

8月に光が丘公園で自然体験プログラムを行うにあたり、
下見を兼ねて見られた生物の記録を行った。
草地が維持されている昆虫原っぱで実施。

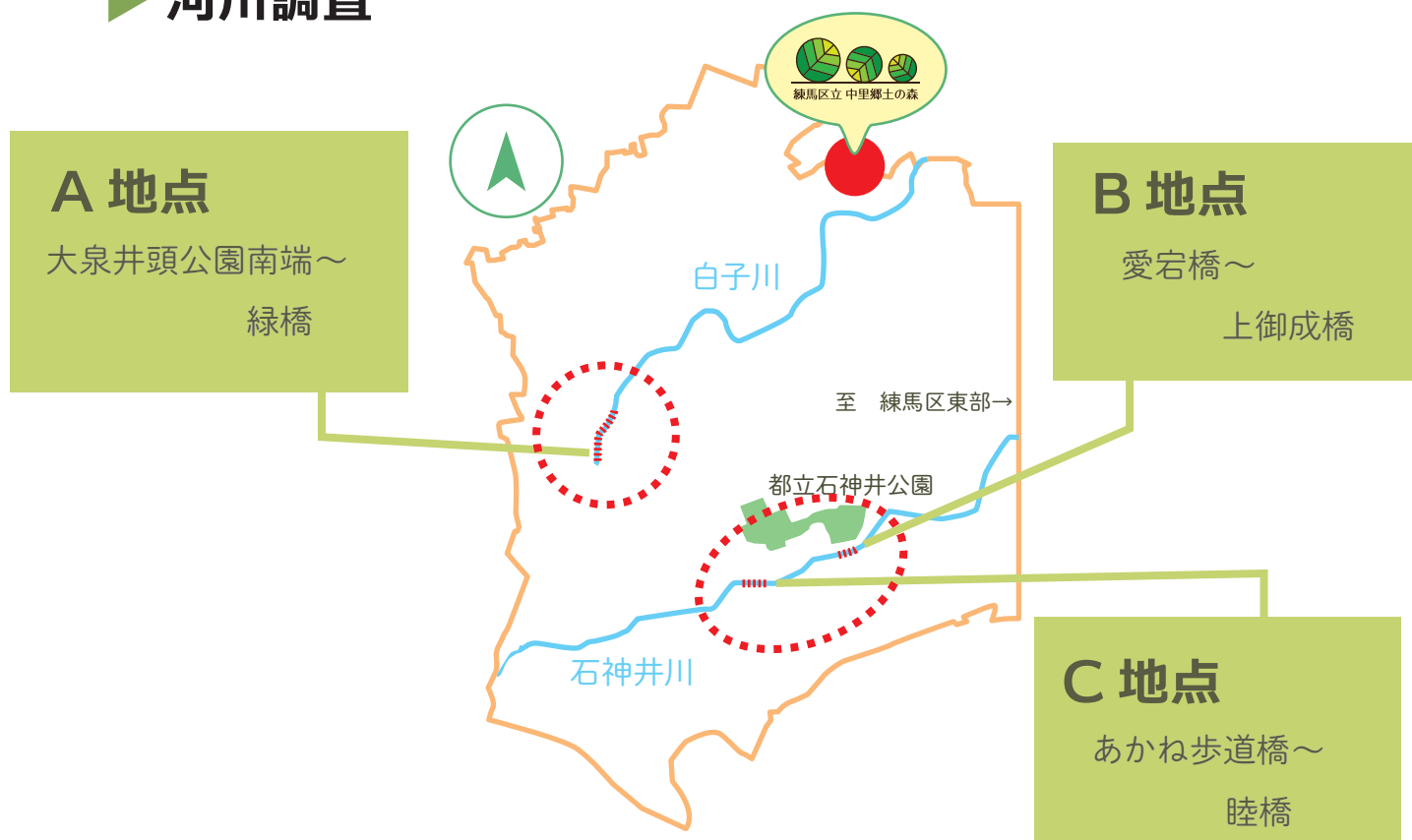


調査範囲

▶ 中里郷土の森とその周辺緑地



▶ 河川調査



RESULT

絶滅危惧種

ENDANGERED SPECIES

ギンラン



絶滅危惧ⅠA類 (CR)

各樹林地で確認。個体数は毎年変動がある。樹木の菌根菌に依存して育つため採取しても育たず、自生地環境を維持していく必要がある。

キシノウエトタゲモ



絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

中里郷土の森園内でよく確認される。森林環境を好み、生育に数年かかるため、良好な森林環境が維持されている指標になると思われる。

コサメビタキ (暫定)



絶滅 (EX)

もみじ山公園で確認。渡りの時期の一時的な立ち寄りに、緑地や公園を利用していると思われる。写真がやや不明瞭なため、暫定とした。

ランクは「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）2020年版」区部のものを参照。

今回見られた絶滅危惧種

今回の調査では、都区部で絶滅危惧種とされている種を 48種 (NT, DD 含む) 確認した。なお、植栽や明らかな逸出等は含めていない。

昨年度よりも確認種数は減ったが、ニホンスッポンなど今年度初記録の種もあった。植物は生育箇所が決まっているため毎年みられる種が多いが、特に昆虫などでは確認した年にしか見られない種が多い。過去の記録から、長期間確認されていない種に対しては注意してみておく必要がある。

また、植物は管理方法が変わることによって一気に消滅する可能性があるため、本調査の記録を手入りに携わるボランティアの方などに共有しておきたい。

種名	みられた緑地	都区部 RDB
ゴマギ	中里郷土の森	EX
モズ	白子川沿い	CR
ヤマブキシソウ	中里郷土の森	CR
クサスゲ	清水山の森	CR
ヒガシニホントカゲ	ほぼ全域	CR+EN
ニホンカナヘビ	ほぼ全域	CR+EN
ニホンスッポン	白子川	CR+EN
アオゲラ	土支田八幡宮など	EN
オオタカ	中里郷土の森など	EN
ツミ	中里郷土の森など	EN
ホトケドジョウ	白子川	EN
オオミズアオ	中里郷土の森など	VU
キシノウエトタゲモ	中里郷土の森	VU
フモトシケシダ	稻荷山憩いの森	VU
チョウセンガリヤス	八坂神社	VU

今回確認された絶滅危惧種の一部（詳細は別紙参照）

その他特徴的な種

オトギリソウ



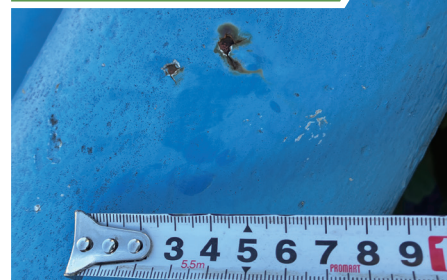
稲荷山憩いの森で確認。希少種では無いが、今まで記録が無く、見つけやすい園路沿いで見られたため、埋土種子の発芽などによるものの可能性がある。

シマヨシノボリ



白子川で確認。本調査では今まで記録が無かったが、今年では多数確認された。調査地点より下流部で行われた別調査で過去に記録があったので、遡上してきた可能性もある。

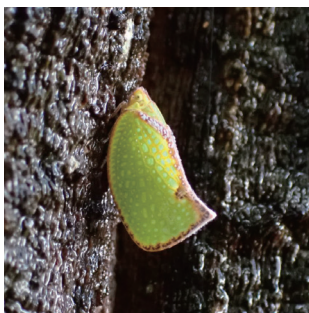
アライグマ



中里郷土の森、白子川で本種と思われる足跡を確認。今までに記録はない。区内での捕獲は多くないようだが、分布が拡大している可能性がある。

外来種

中里郷土の森と周辺の外来種



近年分布を拡大しているとされるヘリチャハゴロモが、稲荷山憩いの森で初確認された。アライグマなど侵略性が強い外来種の確認もあり、今後これらの種類が増加していく可能性がある。クズクビボソハムシは、引き続き増加傾向。

特定外来生物

- ・アカボシゴマダラ
- ・アライグマ
- ・オオカワヂシャ

その他生態系被害防止外来種

- ・シナサルナシ（キウイフルーツ）
- ・ワカケホンセイインコ
- ・フロリダマミズヨコエビ
- …etc.

白子川・石神井川の外来種



昨年から条件付き特定外来生物に指定された、ミシシippアカミミガメとアメリカザリガニはどちらも確認された。石神井川でみられる、アクアリウムプラントからの逸出とみられるハビコリハコベは微増傾向で、調査範囲でしばしば

みられた。白子川源流部など、外来生物の駆除活動が行われている地点では、カンガレイなどの在来植物が繁茂している。

特定外来生物

- ・オオカワヂシャ
- ・ミズヒマワリ
- ・ミシシippアカミミガメ（条件付）
- …etc.

その他生態系被害防止外来種

- ・オランダガラシ（クレソン）
- ・オオカナダモ（アナカリス）
- ・ハビコリハコベ（グソッロスティグマ）
- ・キショウブ
- …etc.

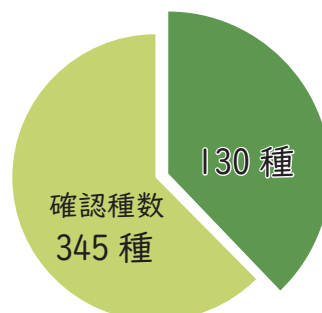
緑地ごとの特性と昨年度からの変化



中里郷土の森

ビオトープ池の様子は徐々に移り変わっており、今年はショウジョウトンボなど、
昨年は確認されなかった種類が多くみられた。草地は落ち葉かきなどを行い管理することで、ヤハズエンドウなどの冬生草本が多くみられるようになった。

この場所のみで確認



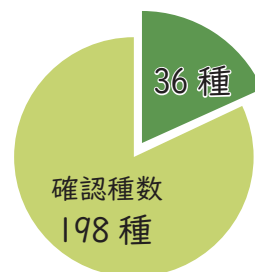
比較のため底生生物調査の結果は除いている。



もみじ山公園

鳥類の渡りの季節になると、コサメビタキなどの渡り鳥が一時的に立ち寄るスポットとして利用している様子がみられる。大きな環境の変化は無いが、ここ数年、草地で帰化植物のフトエバラモンギクの数が増加傾向にあるため、注視する必要がある。

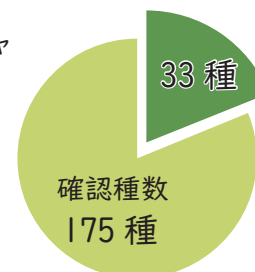
この場所のみで確認



白子川沿い（万年橋～越後山橋）

大きな環境の変化は無いが、護岸底面のオオカワヂシャは非常に多い。また、都区部準絶滅危惧種のチュウサギが初めて確認された。昨年確認されたクサシギは今年確認できていない。調査地付近にある中里泉公園の池では、コマツモムシがはじめて確認された。

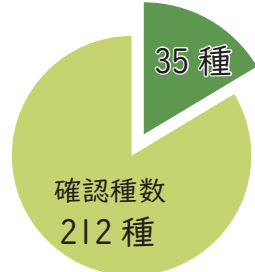
この場所のみで確認



清水山の森

園内の沢にて、オナシカワゲラ属の一種の幼虫が確認された。初記録になるが、以前から成虫を目視で確認しているので、元々ここに生息していたと思われる。各河川を含めても、カワゲラ目の昆虫は今のところここでしか確認されていない。

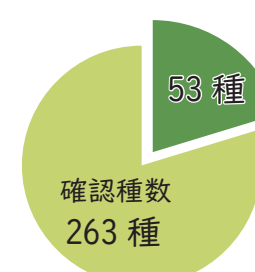
この場所のみで確認



稲荷山憩いの森

夜間イベント下見時に、近年分布を広げているとされるアカアシオオアオカミキリが複数確認された。他にもヘリチャハゴロモやクズクビボソハムシなど、外来昆虫でも近年稲荷山に侵入したと考えられるものが見つかっている。

この場所のみで確認

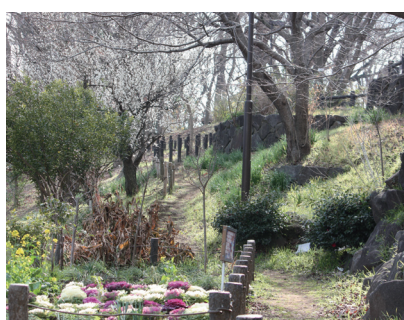
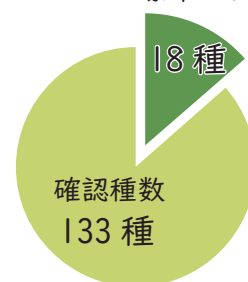




土支田八幡宮

昨年同様、環境や植生の大きな変化はみられない。外縁の藪になっている部分などでヒガシニホントカゲやニホンカナヘビなどがよく確認され、近年都区部で数を減らしているとされる本種たちの繁殖や生存に貢献しているかもしれない。

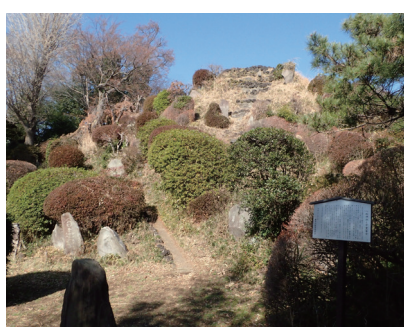
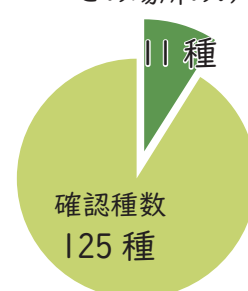
この場所のみで確認



越後山憩いの森

樹液が出て沢山の昆虫が集まっていた木が昨年伐採されたため、目視できる昆虫に関してはやや数が減っている様子。他にクヌギやコナラは残っているので、良好な樹林環境は維持されている。オオタカやアオゲラなどの区部では少ない鳥類が確認された。

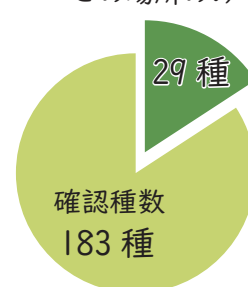
この場所のみで確認



八坂神社

富士塚部分では大きな環境の変化は無く、良好な草地環境が維持されている。隣接する樹林地が伐開されて明るくなったことによる顕著な影響は、本調査の中ではみられない。埋土種子からの発芽と思われる、やや稀な帰化植物のエビスグサが確認された。

この場所のみで確認



河川調査



白子川

調査範囲のほぼ全域に、今まで本調査では記録の無かったシマヨシノボリが多数確認された。下流から遡上してきたものと思われるが、河川的环境が変化しつつある可能性がある。他には都区部 CR+EN（絶滅危惧Ⅰ類）のニホンスッポンが記録された。



石神井川

以前より確認されているアクアリウムプランツの逸出であるハビコリハコベは、今回の調査では増加しているようだった。特定外来生物のアレチウリは、前回確認された地点ではみられなかった。増水などにより流された可能性がある。